

突然襲う土砂災害

自らの身を守るためには、
「日頃の備え」と「早めの避難」が大切です

**国民の命と暮らしを脅かす土砂災害が、
 毎年平均1000件以上発生しています**

現在、日本全国に土砂災害が発生
 するおそれのある危険箇所は52万箇所、
**約9割の市町村が土砂災害の危険
 と隣り合わせ**となっています。



平成24年7月九州北部豪雨により熊本県阿蘇市で発生した土石流災害。この豪雨により九州北部一帯は多数の死者を含む甚大な被害を被った。



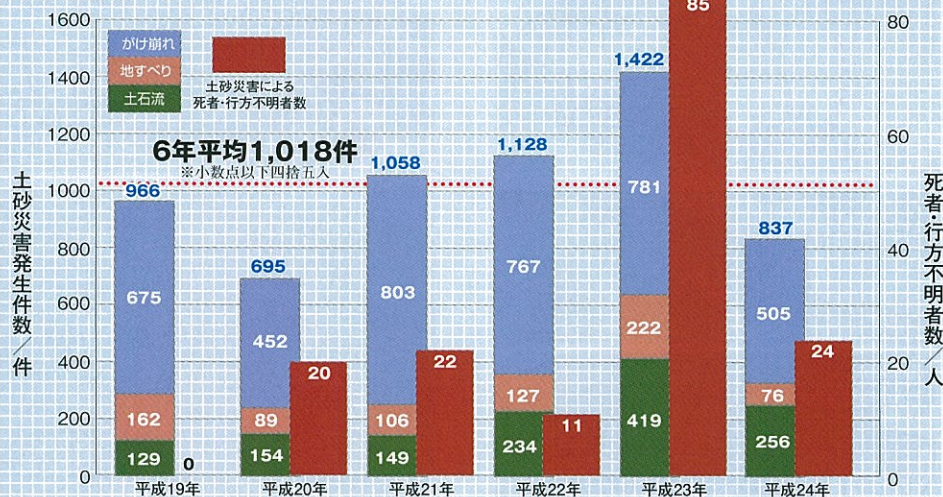
平成24年7月3日、梅雨前線に伴う大雨により静岡県牧之原市で発生したがけ崩れが人家を襲った。砂防施設が整備されていたため、被害は最小限に食い止められた。

制作：NPO法人砂防広報センター 写真：国土交通省砂防部

異常な豪雨があいつぎ 土砂災害が多数発生

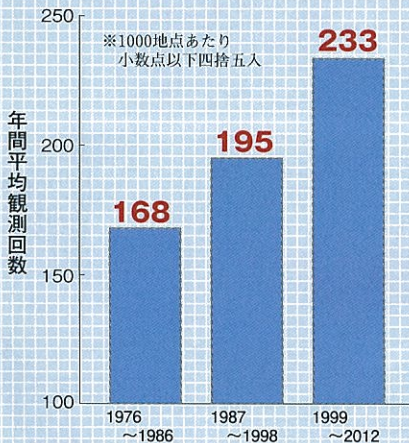
近年、異常な豪雨が増加しています。1時間に50ミリを超える大雨が降る回数が増えており、土砂災害が多発しています。昨年も各地で記録的な大雨が観測されており、土砂災害による甚大な被害が発生しています。

■ 最近の土砂災害発生状況 参考資料：国土交通省砂防部HP



■ 局地的な集中豪雨が増えている

1時間降水量50ミリ以上の年間観測回数の推移
 ※気象庁資料をもとにNPO法人砂防広報センター作成



あなたの住んでいる場所が、土砂災害危険箇所か点検してください

土砂災害の多くは「土砂災害危険箇所」で発生します。自分の家や近所が土砂災害危険箇所にあるかどうか点検してください。土砂災害危険箇所は、市町村役場に問い合わせることで確認できます。国土交通省砂防部のホームページ（「国土交通省砂防部」で検索）でも確認することができます。

※局地的豪雨が増えたことなどにより、近年は土砂災害危険箇所以外でも土砂災害が発生しています。



危険を感じたら早めの避難 日頃の備えが大切です

避難の道順を決めておく

避難所はどこか、避難の道順に危険がないか、日頃から調べておきましょう。



防災無線や広報車による呼びかけに注意する

強い雨や長雨の時には、市町村による広報車の呼びかけなどに注意しましょう。



お年寄りは早めに避難させよう

犠牲者の半数以上を占めるのは、お年寄りなど災害時要援護者です。移動時間を考えて早めの避難を。



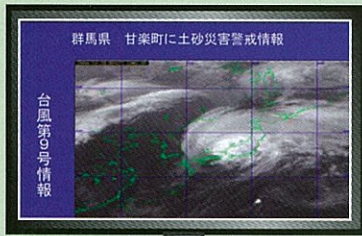
土砂災害から身を守るために

日頃の備えと 早めの避難



土砂災害警戒情報に注意しよう

雨が降り出したら、土砂災害警戒情報に注意しましょう。土砂災害警戒情報は、気象庁ホームページや各都道府県の砂防課などのホームページで確認できます。都道府県や市町村によっては携帯電話などに自動的に土砂災害警戒情報を教えてくれるサービスもありますので活用してください。土砂災害警戒情報などが発表されていなくても、下記にある前兆現象のような異変を感じたらただちに避難するとともに、市町村役場や最寄りの都道府県土木事務所などへ連絡してください。



TVによる告知例 (NHKテレビ放送より)

！土砂災害の多くは木造一階で被災しています。豪雨などでもどうしても避難所への避難が困難なときは、次善の策として、近くの頑丈な建物の二階以上に緊急避難したり、それも難しい場合は家の中でより安全な場所（例えば、がけから離れた部屋や二階など）に避難しましょう。

こうした現象は土砂災害の前兆現象です

こんな現象を見たら…聞いたら…早めに避難しましょう。

※ここに紹介した現象が、土砂災害発生の前兆現象の全てではなく、また、これらの現象が見られなくても土砂災害が発生する場合があります。

キケンな場所には近づかないようにしましょう。

地すべり



土石流



がけ崩れ

